



中学校の社会見学でトンネルの建設現場を訪れたことをきっかけに、土木の仕事に憧れを抱くようになった。「皆の当たり前を守るインフラ」に魅せられ、大学ではトン

エイト日本技術開発 橋梁事業部中国支社保全部

おかざき のどか
岡崎 陽香さん

ネル工学の道へ進んだ。入社後は橋梁の修繕設計を担当。大学で学んだトンネルと少し距離はできたが、「維持管理には新設と違う奥深さがある。今の仕事を続けたい」と穏やかに語る姿に、仕事への誠実な思いがにじむ。

修繕設計を担当しながらも、「自分の目で見て、触れて、確かめることが大切」と頻繁に現場へ足りたいたい」と話す言葉から運ぶ。古い橋は図面がそろっていないことも多く、細かな寸法や鉄筋の状態を一つ一つ確認していく。新設と違い「華やかな仕事ではない」が、「裏で人々の生活を支える欠かせない仕事」と静かな誇りを胸に秘める。入社直後は部署で唯一の女性技術者だった。現場出張も多く、体力面など女性ならではの苦労も少なくなかった。それでも「狭い場所や高いところに入る仕事」を進んで引き受け、着実に経験を重ねてきた。3年前に初めて後輩を迎えてからは先輩としての自覚も自然に芽生えた。「後輩が何でも相談できる空気をつくりたい」と話す言葉からは、周囲への思いやりと責任感が伝わってくる。休日は大好きな韓国旅行で心身を整える。2カ月に一度は現地を訪れ、日常会話もマスターするほどの熱中ぶり。オンとオフを上手に切り替え、日々をしなやかに歩んでいる。

インフラを守る実感が仕事の原動力

